

## 令和4年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>音楽科研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>音楽に対する感性を育む題材デザイン ～ 感動を経験し、共有する学習を通して ～</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら判断し、表現する力」</li> <li>・「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力」</li> <li>・「生涯にわたって音や音楽へ親しむ姿勢」</li> </ul>
<p>研究内容</p>	<p>令和3年1月の中教審答申「令和の日本型学校教育」では、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であることが示された。また、学習指導要領（平成29年告示）では、これまでの我が国の学校教育の実績や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すことが示された。音楽科においてもこれまでの成果を踏まえ「音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさ（や美しさ）などを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る」ことが示されている。</p> <p>本研究会議では、音楽科の学習を通して育成を目指す資質・能力を「自ら判断し、表現する力」「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力」「生涯にわたって音や音楽へ親しむ姿勢」と考えた。この資質・能力の育成に向けて、音楽科の学習で大切なことは、児童生徒が「自分にとっての音楽の意味や価値を見だし、音楽との関わりを通して自己の存在を築いていくこと」であり、そこには「音楽に対する感性の働き」が大きく関わると考えた。</p> <p>そこで、「個の感性を育む」ことと、「異なる感性が集まり新たな価値が生まれる喜びを経験する」ことを目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を考え、日々の音楽科の学習が資質・能力の育成に向けて効果的に行わるよう、題材の授業デザインについて実践・検証し、研究することとした。</p>